資料２

議事

⑵　乳幼児期から中学校までの接続教育について

乳幼児期から中学校までの接続教育について

１　幼児教育と義務教育の架け橋期のプログラムの目的

令和元年より接続期カリキュラムを作成している。それは、５歳児後半から小学校１年生７月までの１年間の計画であるが、接続の必要性について幼児教育施設と小学校で意識の差があること、子ども同士、教育間交流等の交流にとどまり、幼児教育施設で育まれた資質・能力をつなぐカリキュラム編成・実施が行われていない現状がある。

こうしたことを受けて、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には小学校教育との円滑な接続を図るよう努めることが明記された。５歳児から小学校１年生の２年間を「架け橋期」としてとらえ、焦点化し、０歳から18歳までの学びの連続性を意識して「架け橋期」の教育の充実を図ろうとするものである。

この方針を受けて、「架け橋期」では、保幼こ小中の一貫教育を意識した取り組みをするなかで、子ども一人一人の個性・多様性に配慮して、子どもすべてに質の高い学びの機会を提供できるよう、幼児期及び「架け橋期」の教育の質を保障することを目指したい。

参考資料２－１・２－２

２　令和６年度函南町架け橋プログラム推進計画案

幼児教育から義務教育への架け橋期及び継続的な連携推進を図るため、教育委員会主管の推進会議（仮称　接続教育推進会議）を定期的に開催し、保幼こ小中の一貫教育を意識した函南町架け橋プログラムの推進を図る。　参考資料２－３・２－４

(1)　計画内容

函南町教育委員会		函南町教育研究会
【(仮)接続研究推進会議】 ＊架け橋期のカリキュラム（義務教育終了時までに育ってほしい姿）の作成 **【事務局】** ・接続研修会（8 月）の企画、運営 ・保幼こ小、小中連絡会（年度末） ・幼児教育センターだより「つながる」発行	接続研修会（8月実施）	**【連携推進委員会】** ＊教員間交流・子ども間交流 ＊授業参観（保幼こ園・小中学校）

(2)　推進体制

函　南　町　教　育　委　員　会

【(仮)接続研究推進会議】
＊委　員：９名・・・校長２名　教頭１名　教務主任２名　園長２名　園主任２名
＊事務局：幼児教育センター

町　教　育　研　究　会

【連携推進委員会】
＊委員長：担当校長　　＊副委員長：担当教頭
＊委　員：町内小中学校の教務主任
※園長、園主任は必要に応じてオブザーバーとして参加。
※幼児教育センターは要請により参加。

町内 各園

春光幼稚園
丹那幼稚園
間宮幼稚園
みのり幼稚園
自由ヶ丘幼稚園
二葉こども園
西部保育園
若葉保育園
函南さくら保育園
仁田マーガレット保育園
函南ひまわり保育園
はなみずき保育園

町内 各小中学校

函南小学校　丹那小学校　桑村小学校　東小学校
西小学校　函南中学校　東中学校

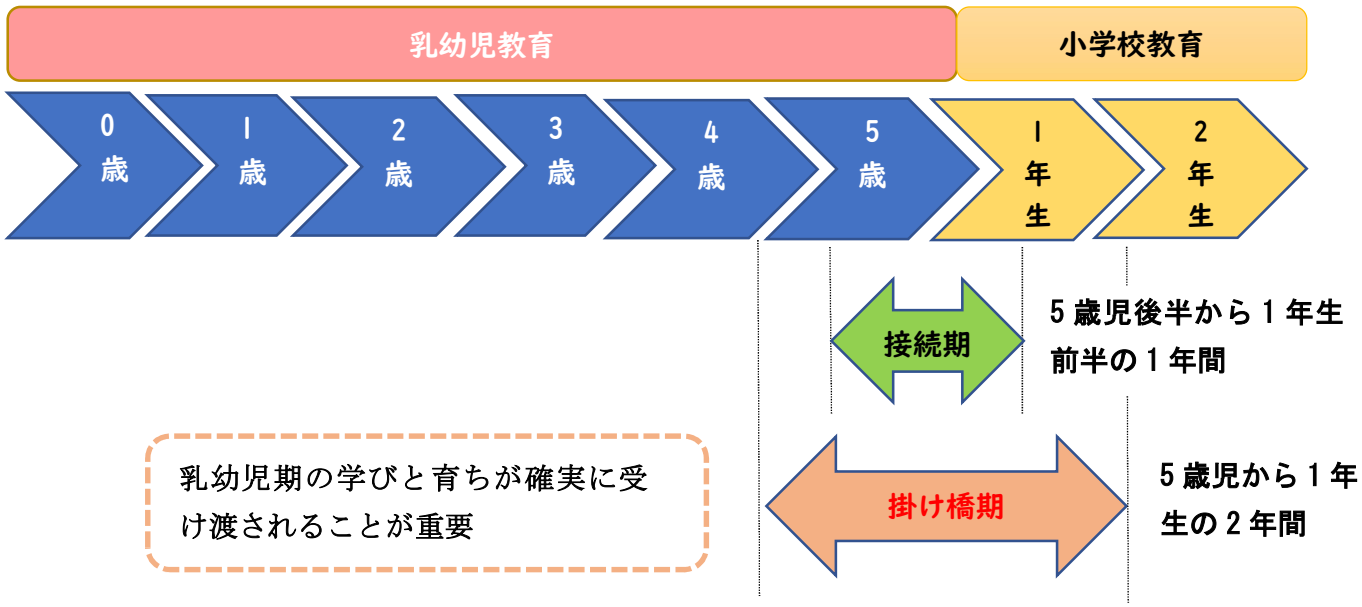
(3) 今後の計画案

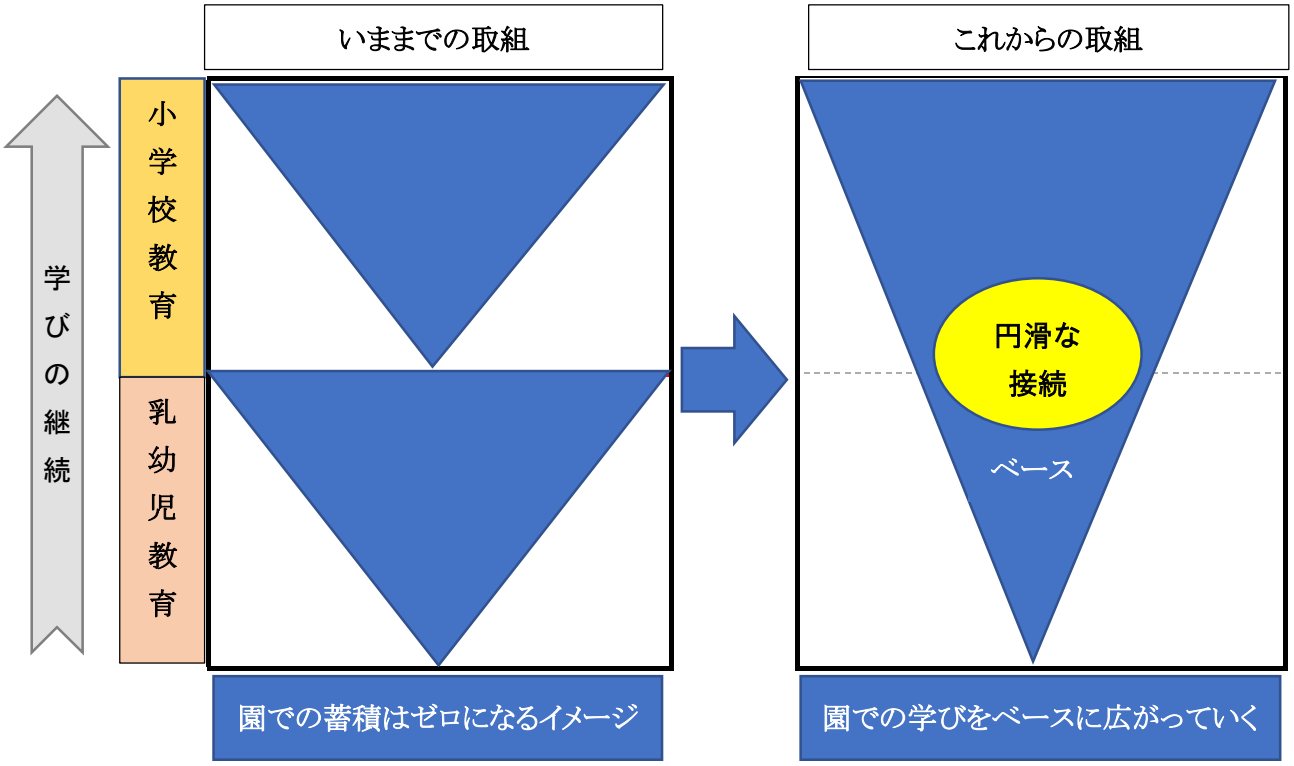
年度	活動内容
令和 ６年度	「(仮)接続研究推進会議」開催 「架け橋期のカリキュラム」全体構想の検討 ◎推進会議の計画、方向性、内容を検討 ◎全体研修会・アンケート実施・評価　参考資料２－５ ◎年３回の会議を開催予定
令和 ７年度	◎全体構想、義務教育修了時までに育ってほしい子ども像を踏まえたカリキュラムの検討など　◎全体研修会　評価 **※(仮称)架け橋期接続コーディネーターの配置**
令和 ８年度	◎カリキュラム検討、試行、評価、改善、
令和 ９年度	◎全体構想を踏まえたカリキュラムの完成 ◎カリキュラム運用開始、評価、改善
令和 10 年度～	カリキュラムの実施・評価　→園・学校教職員への理解浸透

専門家の指導

参考資料２－１

１　接続期から掛け橋期のカリキュラムへ





「保育の学校」：無藤隆著　より引用

幼保の育ちをベースに、小学校につなげる

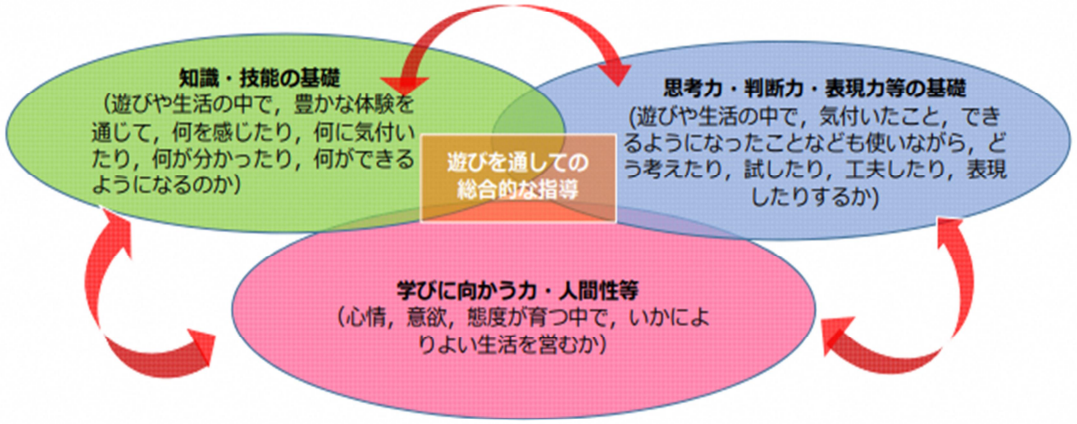
小学校で学ぶことを前倒しする幼児教育ではなく、幼児期で培った力をベースにして、小学校につなげるという意識

「小学校の学びは　０（ゼロ）からのスタート　ではない」

２　幼児期で培った力のベース～ 幼児教育が大切にしていること

参考資料２－２

遊びを通した学び　から　◎意欲　◎～したい（主体性）　を育む



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

＊健康な心と体　＊自立心　＊協調性

＊道徳性・規範意識の芽生え　＊社会生活との関わり

＊社会生活との関わり＊思考力の芽生え　＊自然との関わり・生命尊重

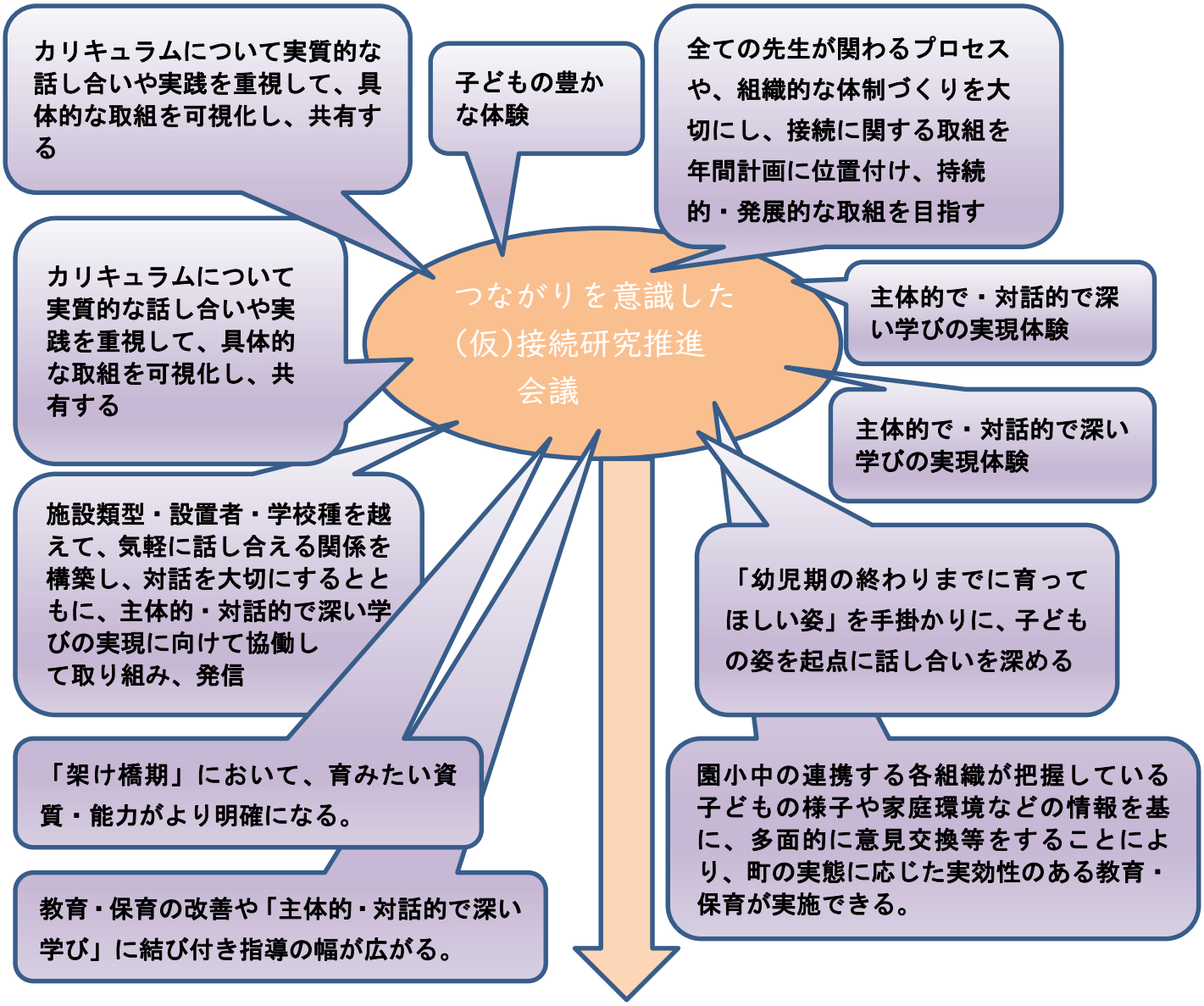
＊数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚　＊言葉による伝えあい

＊豊かな感性と表現

環　境　を　通　し　て　行　う　教　育

参考資料２－３

3　(仮)接続研究推進会議の取組及びカリキュラム完成後に期待されること



掛け橋期のカリキュラムのねらい

乳幼児期に育まれた資質・能力を小学校教育へつなげ、更に伸ばすとともに、子どもに関わる大人が立場の違いを超えて、協働しながら「架け橋期」にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、全ての子どもが学びや生活の基盤を育めるようにする。

参考資料２－４

４　函南町架け橋期のカリキュラム　案

＜園での育ちと学びをつなぐ架け橋期のカリキュラム＞　～ 学びの可視化 ～

函南町架け橋期のカリキュラム 案No.1

		アプローチカリキュラム												スタートカリキュラム											
	月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
育ってほしい子どもの姿	○○ ○○する力	② 子どもの実態から設定した「架け橋期に期待する子どもの姿」																							
	○○ ▲▲する力																								
	○○ 学びに向かう力																								
遊びや学びのプロセス		③「架け橋期に期待する子どもの姿」に向けて、学びのプロセスをどのように深めていくか。環境を通して行う教育の中で、どのような条件や要因が深い学びに影響しているか、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習のプロセスのあり方や深め方について記入します。																							
子どもに経験させたい内容	①健康な心と体	④ ②のような姿、資質・能力等を育むためには、どのような経験や体験が5歳児に必要か。																							
	②道徳性め規範意識の芽生え																								
	③社会生活との関わり																								
	④自立心																								
	⑤自然との関わり・生命尊重																								
	⑥言葉による伝え合い	⑤(園) ④を踏まえ、ねらいに基づいて各園で展開さ												⑤(小学校) 各小学校の生活科を中心とした単元構成（１年生との交流をする場合の交流活動を含む）											
	⑦協同性																								
	⑧思考力の芽生え																								
	⑨数量や図形、標識や文字などへの関心関係																								
	⑩豊かな感性と表現																								
指導上の配慮事項	環境構成への工夫	⑥(園・校) 指導上の配慮事項　　＊日頃の実践をもとに考える																							
	保育者の関わり																								
家庭・地域との連携		⑦(園・校) 家庭や地域との連携　　○幼児教育と小学校教育のつながりや「架け橋期カリキュラム」について、どのように理解を図るか　　○園・小学校で共通して行うこと　　○「かんなみスタンダード」の普及																							

５　研修会の実施

８月８日函南町役場第会議室において、東海大学准教授寳來生志子先生による研修「幼児教育と小学校教育の円滑な接続推進のための講演」を開催。

研修の目的

（１）幼児教育と小学校教育の円滑な接続推進について理解を深める。
（２）幼児教育と小学校教育の円滑な接続推進のために、園、学校が具体的な取組やその方向性について考える。
（３）園と小中学校の教員が、架け橋期のカリキュラムを協働して作成していく手だてを考える参考とする。

演題　：　みんなで伴奏して、育てよう！函南町の子どもたち
～架け橋期の教育を考える～（年長から１年の２年間を架け橋期とする）

以下、講演会後のアンケートより抜粋。

中学でも、教え込みではなく、子どものはてなから、活動につながるようにしたい。教職員間での共通認識もしていきたいし、いきなり怒らず言い方を変えることを実践していきたい。【中学校教諭】

主体的な子供の学びを止めていたのは、教師の出過ぎが原因だと分かりました。年長児との交流会が２月にあるので、１年部と相談してわくわく感を奪わない内容にしたいです。【小学校教諭】

幼稚園での生活や遊びが、小学校につながっていくために必要なことがあらためてよくわかりました。多くの人に架け橋期を知ってもらい、学校全体で取り組めると思います。【小学校教諭】

幼稚園での生活や遊びが、小学校につながっていくために必要なことがあらためてよくわかりました。多くの人に架け橋期を知ってもらい、学校全体で取り組めると思います。【小学校教諭】

動画の中で、子供たちが生き生きと活動する様子が、とても輝いていて、素敵でした。今の学校の中で、このように子供の思いを大切にする学びを実践していくのは、難しく、時間のかかることでもありますが、学びに向かう力を養っていけるよう、私たち教員の意識改革を進めていきたいと思いました。【小学校教諭】

学校も子どもが自ら考える教育に変わっていて、園ではその基礎になるところを育てていくべきだということを改めて感じました。今後も１つ１つのことに子どもたちが自ら関わって考えて行動する保育を心がけていきたいと思いました。【幼稚園】

子どもの主体性を大事にし、学びに向かう姿、力を育むことを引き続きやっていきたいと思います。保育者も学びの場の環境の一部だということを改めて感じました。周りの保育者にも、今の時代に合わせた架け橋期の教育というものを共通理解してもらえるようにしたいと思いました。【幼稚園】

今日の研修会で見せていただいた動画を見ながら、こういう風に学んできた子がそのまま育てばアクティブラーニングが根付いていくのだと思いました。やはりこれは１年生に関わる担当者だけでなく、学校全体で意識改革をしていくことが必要だと感じました。教員側が変わっていかないといけないなぁと思います。【小学校教諭】